



能登名物

おたけまき

御菓子司 たにごち  
羽咋郡宝達志水町荻町9の1  
☎0120-292112

- ◇昼＝牧園流歌謡舞踊、たのしいコーラス、初心者のハーモニカ、古文書を読み解く
- ◇夕＝しの笛
- ◇夜＝しの笛、HIPHOP
- 【新設講座体験募集】
- ◇BIG先生のHIPHOPDANCE(小学生対象)＝3月

きょうの催し

- 七尾中日文化センター 0767(53)7511
- 7日(土)前10:45～11:35、体験受講料1234円(税込)
- 書道＝3月7日(土)後1:30～2:30、体験受講料1234円(税込)
- ◇基礎から始めるペン書道＝3月7日(土)前10:30～正午、体験受講料1234円(税込)
- ◇大人から子ども基礎から学ぶ
- ◇リラックスヨガ＝第2・4(木)後7:00～8:15
- ◇新会員募集中
- ◇太極拳＝毎週(月)後1:30～3

温泉、祭り、塗り物、ミリー客へ移行。名所歴史の街並み、浜辺、旧跡巡りから、自然や海、朝市、棚田、農村風景、農家民泊、四季折々の食など、能登には地域ならではのものがそろっている。さらに、ドイツ、イタリア、英などEU諸国。農実地は商店街にも適用されている。車は、街並みの調和が素入れず、町を歩いて買物の調和を心掛ける。海客向けの英語サイト

# 都市にない可能性

食環境ジャーナリスト 金丸弘美



## のと文化考 ②

料理へと、大きく変化をしているからだ。海外客からも日本らしい食、情景とたまたまいが、魅力あるものとして映っている。

ただ、いままでのもの、そのまま並べて提供するだけではだめではなからうか。新幹線で、全体の調和や、厳線ができれば、大きな選された食と料理などが、今後は必要で、その発信力が行政手腕として求められるだろう。

なぜなら現在の観光の要素が、団体客から個人、恋人同士、ファミリーは、フランス、



緑豊かな景観をつくる福岡県岡垣町の「ぶどうの樹」

運営で、国内のみならず海外からの客を増やしている。

ユズ関連商品の開発で山村に働く場を拡大した高知県の馬路村農協や福岡県岡垣町のグランド24Kが運営するスナック「かなまる・ひろみ」食環境ジャーナリストト。地域活性化アドバイザー。著書に『田舎カヒト・夢・カネが集まる5つの法則』(NHK生活人新書)他多数。

徹底的に集積し、都市にないものを全体で明確にしている。たは、結果的に観光客を誘致でき、逆に東京へ売れるという、今、逆転現象が各地で起こり始めている。

そんな潮流のなかで能登の文化は、今後の主流になる可能性を大いに秘めているといえるだろう。



句集「卒寿」を手に「100歳を超えても句を作りたい」と語る木津亥さ無さん＝羽咋市千里浜町で

内のプールで泳ぎ、マスターズの大会にも出る元気さ。

JR羽咋駅の一角に毎月、句を出している。三月の句は手元のメモ用紙にある。北陸新幹線開業に寄せて

「啓蟄や輝き放つ北陸」

卒寿に詠んだ。「一事成りし早春鶯の笛」。作品は「分身のよつなも」という。「生涯の一句を残したい」とも願う。巻末に

「卒寿に思つ」と題して短歌を三首載せた。「これが私の希望です」と思いを託した一首は「卒寿経て白寿はなおも遙かなり歳を忘れてわが日々を生く」(小塚泉)

輪島市名舟町に伝わる県指定無形文化財「御陣乗太鼓」の無料実演が、ことしからマリンタウンで開催さ

輪島で宿泊する観光客を増やそうと毎年、四月末から道の駅

### 三つの朝市 交流協定調印



協定書に調印し、結束を誓い合う(左から)陣屋前の川端幸泰組合長、輪島の小林政則組合長、宮川の野村正理事長＝輪島市役所で

#### 輪島と高山の組合

九日、連携交流協定を結んだ。輪島市役所で調印式があり、日本を代表する朝市の代表者が手を携え、さらなる活性化を誓い合った。

輪島の小林政則組合長(左)、陣屋前の川端幸泰組合長(中)、宮川の野村正理事長(右)が出席。協定書にサインし、梶文秋輪島市長、清水孝司高山市商工観光部長とともに握手を交わした。

効果的な情報発信の方法を探り、外国人観光客の受け入れに知恵を出し合うなどして互いの魅力向上を目指す。年一回それぞれの朝市への出店や、相互のパンフレットの設置、配布も考えている。

輪島朝市はバブル期直後まで年間百四十万

自分で栽培した大豆で豆腐作り

珠洲・直小児童

珠洲市直小学校の四年生十九人が十八日、同市直公民館で、学校農園「ただっ子農園」で栽培した珠洲特産の大浜大豆と、珠洲産のにがりを使って豆腐作りをした。

総合的な学習の農業体験と公民館の地産地消活動の一環。児童たちは三班に分かれ、地元婦人会メンバーの指導で作業。二十四時間



婦人会員に豆腐作りを教わる児童たち＝珠洲市直公民館で

このうち一人は、昨年末に詳細な身元が不明な人の行き倒れがあり、委員が親族捜しや納骨の段取りに奔走した事例を紹介。「一人暮らしのお年寄りは増えており、今後こうした事例が起きる可能性はある」と問題提起した。(渡辺大地)

紙面構成・上原梨花

民生児童委員ら事例通じて学ぶ

志賀の協議会

志賀町民生児童委員協議会の研修会が、七尾市内の旅館であり、委員六十九人が活動報告やグループ討議などを通して見識を深めた。松村和子会長のあいさつに続き、代表して委員三人が活動を報告した。